

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【仲本小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	一定数いる正答率の低い児童への対応	⇒ ・朝の基礎学習タイムを活用して、国語、算数の学習の習熟や定着を継続していく。 ・「ドリルパーク」や「学習探検ナビ」、「スタサブ」等を活用して、学習内容の習熟、定着、復習を図るとともに家庭での活用を充実させていく。
思考・判断・表現	一定数いる正答率の低い児童への対応を行い、一層の「思考・判断・表現」する力の育成	⇒ ・授業の中に自力解決の時間を位置付ける等、「個」で考える時間を確保することで、児童の思考を促したり、個別の支援をしたりして、「個別最適化された授業の一層の促進を図る。さらに考えを豊かに伝え合うことで、自分の考えを広げ、深めるようにする。 ・さいたま市が推進する「じ・し・や・く」を授業づくりのポイントとし、個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの具現化に努めていく。
主体的に学習に取り組む態度	校内研修の課題「主体的に考え豊かに伝え合うことで、考えを広げ深める児童の育成」の実践	⇒ ・「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践を行う。 ・一人一授業公開による研究を進める。 ・主体的に学習に取り組む、考えを広げ深めるための手立て及び児童が学びを調整していくための手立てを検証する。

次年度に向けて
(3月)

<小6・中3> (4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語では漢字を使って書き直す問題や敬語の使い方について適切なものを選択する問題で正答率が全国平均よりも低かった。敬語においては無解答率も高かった。 算数では概ねどの領域でも知識・技能における正答率は全国を上回っている。二次元の表から条件に合う数を読み取る問題では無解答率が高くなっている。三角形の角の大きさを求める問題について、正答率は低いが、無解答率はそれほど低くなく、あきらめずに解答しようとした姿勢がうかがえる。
思考・判断・表現	国語では最後の自分の考えをまとめ、書く問題において、無解答もあったが、正答率は全国平均を上回っており、児童が2極化していることを表している。特に図表やグラフなどを用いて自分の考えを伝えるように書き方を工夫する問題では無解答率は極めて低く、「読むこと」における正答率は極めて高い。 算数ではグラフを読み取って記述する問題の無解答率が高い。全国に比較すれば半分ほどの割合であるが、問題の中で無解答率が最も高かった。
主体的に学習に取り組む態度	全体的には無解答率は低かったが、記述の問題ほど無解答率が高くなる傾向が見られる。難易度の高い問題や自分の考えをまとめることに対して早い段階であきらめてしまっている児童がいるのではないかと。また、国語では漢字の正答率の低さから、短時間で効果的な学習を進める必要があると考えられる。一方で質問紙の結果から学校外の学習時間が多く、家庭での学習環境が整っている児童が多いことがわかる。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3		小4	
小5		小6	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ ・朝の基礎学習タイムを活用して、国語、算数の学習の習熟や定着を継続していく。 ・「ドリルパーク」や「学習探検ナビ」、「スタサブ」等を活用して、学習内容の習熟、定着、復習を図るとともに家庭での活用を充実させていく。さらに漢字の学習では、読み仮名を使った振り返りなどにより効果的な学習を行う。 ・算数では算数的な活動を取り入れるなど、授業で子どもの思考に寄り添った学習を進め、子どもの「わかった」という体験を積み重ねる。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ ・一人一授業公開の取り組みを生かし、授業の中に自力解決の時間を位置付ける等、「個」で考える時間を確保し、児童の思考を活性化させたり、個別の支援をしたりして、児童一人ひとりの考えを広げ、深めるようにする。 ・さいたま市が推進する「じ・し・や・く」を授業づくりのポイントとし、個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの具現化に努めていく。 ・学校課題研修の中で、児童が自分の考えを豊かに伝え合うこと場の研究を深める。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ ・「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践を行う。 ・一人一授業公開による研究を進める。 ・主体的に学習に取り組む、考えを広げ深めるための手立て及び、難易度が高い課題に対して児童が最後まで取り組むための学びを調整する手立てを検証する。

中間評価(9月)
目標・策の見直し